

練習を積み 憧れの大学三大駅伝で活躍したい

天皇杯 第25回全国都道府県対抗
男子駅伝競走大会 出場

工藤 信太郎 さん

くぐろう・しんたろう 15歳 西根中3年



平成16年に生まれる。西根中の特設陸上部とソフトテニス部に所属。3年時には特設陸上部の主将を務めた。令和元年に開かれた平成国際大学長距離競技会3000^mで、8分42秒54の自己ベストをマーク。座右の銘は「失敗とは転ぶことではなく、そのまま起き上がらないこと」。

1月19日に広島県で開かれた全国都道府県対抗男子駅伝(7区間、48^{km})に岩手県代表として出場した西根中3年の工藤信太郎さん。2区3^{km}を8分47秒、区間順位27位の速さで力走した。「自己ベストを更新しなかったが達成できず、もっとチームに貢献したかった」と悔しさをにじませた。走るのが好きで、中学校入学後に特設陸上部へ入部。先生の指導を受けながら、先輩の後を追いつけた。2年時の盛岡市内一周継走では3走を務め、西根中初優勝の快挙を成し遂げたが、メンバー5人の中でタイムが一番遅かったことがショックだった。「みんなの走るペースを自分で落としたくはない」と自らを奮い立たせた。同大会後、憧れのキプチョゲ選手の走り方を研究し、自身のフォームを改善。部活動で毎日10^{km}を走るほか、



2区を激走する工藤さん(左)
(全国都道府県対抗男子駅伝)

自身で考案した練習メニューにも取り組んだ。そして、3年時の盛岡市内一周継走では、区間1位の走りで連覇を達成。県中駅伝では2区3・1^{km}を9分33秒で走り、区間新記録をマーク。全国都道府県対抗男子駅伝に選出された。4月からは県内屈指の駅伝名門校、一関学院高へ進学する。工藤さんは「さらに練習を積み、自分の走りを進化させていきたい。将来は、大学三大駅伝といわれる出雲駅伝、全日本大学駅伝、箱根駅伝で活躍したい」と意気込んだ。

編集後記

▽「雪がない」という話も近年では珍しいことではなくなってきた気がします。初めて見た七瀬の水瀑も例年より早く崩れてしまいましたが、残った水でも間近で見ると圧倒されます。全面凍り付いた滝が見たい！また行きたい！キャンセル待ちが出るほどの人気ツアーらしいです。滝までの往復の道のりで靴ずれして痛い思いも残ったことは内緒です。

▽キラリ輝人の工藤さん取材。県中駅伝前では、一人一人に合った練習メニューを考案したり、コースの下見を念入りに重ね、ノートにまとめて共有したりと、仲間思いの主将の一面も知ることができました。常に高い目標を掲げて取り組んできた工藤さんの今後の活躍を期待し、応援しています。

▽現在、小学校に入学した子どもたちの65%は将来、今存在しない職業に就く(アメリカの大学教授キャシ！デビットソン氏)という話題が、テレビで紹介されていました。これは2011年の予測だそうです。現在、子どもたちに人気のユーチューバーもその頃に生まれ、注目が集まったのがそれから数年後。まさか小学生のなりたい職業ランキングに入ることになろうとは想像もつきませんでした。でも、今後さまざまな仕事が自動化されていくことは想像つきです。その時ロボットに仕事を奪われたらと思うのが、仕事を任せると思っている状況次第。「今から将来の仕事を考えるのに、早すぎることはないかもしれない」。そう考えさせられる特集記事の作成でした。